

同窓会 創立70周年

記念ホームカミングデイ開く

国内最古の 私立工業大 躍進ぶりに感慨



2017
12.15
ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<http://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

- 2面 佐藤研3人が経産大臣賞/ロボ相撲伊藤さん池田さん全国大会出場も…/阿尻さん優秀ポスター発表賞/タウンキャンパス来場70万人達成/日墨学長会議に小宮学長出席
- 3面 海外発表9人受賞/神保さんFIT奨励賞/デザイン院生4人が優秀賞/金田准教授に最優秀論文発表賞/佐野教授に流体工学部門賞
- 4面 FDフォーラム/SI-LABの2チーム発表/習志野市が講演会/AO・推薦入試終了
- 5面 タウンキャンパスで「こども大学」/禁煙セミナー開く/校友「鬼柳一宇さん」
- 6面 第68回津田沼祭

講演会場に集まった同窓生たち

千葉工業大学同窓会創立70周年を記念して、「大同窓会」と銘打った第7回ホームカミングデイが11月25日、津田沼キャンパスで開かれた。全国から参加した約400人の卒業生は、ツインタワー校舎に目を見張り、全国9位の入学生志願者数や世界に発信される研究成果など、母校の躍進ぶりを改めて実感。北海道で「世界最高」の牛乳を生産している浜中町農協の石橋榮紀代表理事長(昭和39年工業経営卒)の特別講演に耳を傾けた。



■会員8万4千人超す
会場の2号館大教室では、冒頭あいさつに立った坂本洋会長(昭和45年

土木卒)が、同窓会員数が8万4179人に達したことをまず報告。興亜工業大学から千葉工業大学に改称した翌年の昭和22年に創立した76人の第一期卒業生が、戦後混乱期の中で日本復興の気概を込めて同窓会創立に力を注いだとして、次のように話した。

「母校は我が国唯一の私立の旧制工業単科大学として75年の歴史を有し、その躍進は眼を見張るものがあります。そんな母校を同窓会の仲間が陰に陽に支えて下さっているのを見ると心が熱くなります」

続いて瀬戸熊修理事長は祝辞で、経済誌による日本の上場企業役員数の大学ランキングで、千葉工大は掲載780校中64位、私立では37位にランクされたことを紹介。「これは同窓生が国内外の産業界で中心的な役割を果たしていることの証左だと思う」とした上で、「前任者の第1期卒業生・豊田耕作理事長は、自前の校



「千葉工業大学75年のあゆみ」発行

今年5月15日に75周年を迎えた本学の歴史を記した「千葉工業大学75年のあゆみ」写真集が11月1日付で発行された。創立から芝園(現新習志野)キャンパスの建設が始まった昭和60年までを「創成期」、第11代豊田耕作理事長就任の昭和61年から、未来ロボット技術研究センターや惑星探査研究センタ

の開設、津田沼ツインタワー完成を経て豊田会長逝去の平成24年までを「成長期」、▽ロボットや惑星探査研究が注目を浴び、人工知能・ソフトウェア技術、国際金融、次世代海洋資源開発の3研究センターを立ち上げ、5学部17学科体制が開始した現在までを「躍進期」とし、創立100周年へさらに前進を誓う書となっている。A4版・全カラー60頁(箱入り)。

の開設、津田沼ツインタワー完成を経て豊田会長逝去の平成24年までを「成長期」▽ロボットや惑星探査研究が注目を浴び、人工知能・ソフトウェア技術、国際金融、次世代海洋資源開発の3研究センターを立ち上げ、5学部17学科体制が開始した現在までを「躍進期」とし、創立100周年へさらに前進を誓う書となっている。A4版・全カラー60頁(箱入り)。

は幕を閉じた。
★「世界最高牛乳づくり 石橋会長が特別講演 石橋榮紀・北海道浜中町農協代表理事長」同左の特別講演は「JA浜中町の地域振興の取り組み」。同農協の牛乳を組合員が「世界最高の品質」と自負するまでに育て上げ、アイスクリームの世界ブランド「ハーゲンダッツ」の日本国内での原料を全量供給するまでの挑戦を語った。さらに、その豊かな発想力と大胆な事業力、本学で学んだ工業経営の知識を基に地域振興のための新規就農者の受け入れや、組合員酪農家の業務条件改善のための地域企業との連携など、次々と新規事業を立ち上げ、成功に導いた秘訣を打ち明けた。その最大の信条は「ダメもとでもやってみよう」という。

地・校舎を持たない大学ゆえの筆舌に尽くしがたい苦勞を味わわれ、その経験から「後輩には自分たちのような惨めな体験をさせてはならない」という強い信念の下、キャンパスの整備に全力を注がれました。その汗の結晶が今日の千葉工業大学の姿なのです」と功績を称えた。

また、小宮一仁学長は同窓会の創立100周年が間近に迫る2045年に、人工知能(AI)が人間の能力を超えると言われている「2045年問題」を取り上げて、「同窓会が誕生した70年前、日本には3万8000種類の職業があったが、今は1万5000種類。これは科学技術の進歩によるものだが、我々はきちんと営みを続けていく。また、統計データを基に計算すれば、今、千葉工大で学んでいる学生の中の550人以上が22世紀を見ることが出来ます。私たちは、そういう時代を力強く生きていく学生を育てていきま

す」と、未来への抱負を語った。この日の参加者全員に11月1日に発行の「千葉工業大学75年のあゆみ」を2冊を参照し同窓会特製のトートバッグが贈呈された。

「浦島太郎のよう」乾杯の鈴木さん
会場を3号館学生食堂に移した懇親会には、卒業生の三浦のぶひろ参院議員と上野和彦都議会議員も駆け付けた。一瀬英貴前会長(昭和42年機械卒)と並んで乾杯の音頭

を執った出席者中最高齢の鈴木青彦さん(昭和26年機械卒)は「浦島太郎になったような思いです。こんな立派な大学に」

「技術の未来見据えて」

「浦島太郎のよう」乾杯の鈴木さん



「ダメもとでもやってみよう」という。

75周年広告が金賞受賞

第56回ビジネス広告大賞(フジサンケイビジネスアイ主催)の1st広告部門で、本学が創立75周年記念日(5月15日)に各紙に掲載した15段広告が金賞を受賞。授賞式が11月24日、東京・大手町のサンケイプラザで行われた。

受賞広告は「求む、宇宙人。」(渡辺潤平社制作)写真。惑星写真を背景に、インパクトのある

いる姿勢を表現。宇宙的な視野を持つ人材の育成を目指す想いを伝えている。グローバルな視点に挑



戦、より広い視野から探求する姿勢が簡潔なメッセージに凝縮されていると評価された。ビジネス広告大賞は産業広告表彰制度として最も歴史がある。今回は昨年10月から今年9月までに掲載された広告が対象で、7部門に計121点のエントリーがあり、39点が表彰された。千葉工大は創立70周年広告「技の国、ニッポン。」でも2012年度読売広告大賞部門賞の優秀賞を獲得している。

海外発表9人が受賞

金融学生ら 生産管理国際大会で

日本生産管理学会などが開く第3回生産管理国際大会（ICPM2017）は9月7～11日、タイ・バンコクのアサンブション大で開かれた。今回のテーマは「生産のデザイン思考とイノベーション」。日本から約100人が参加して研究発表し、本学からは9人が各賞を受賞した。

経営リスク科学科教授に貢献賞、編集委員を務めた久保裕史・プロジェクトマネジメント学科教授には感謝状が贈られた。金融・経営リスク科学科は、ICPMへの参加を、国際コースの行事として奨励している。森教授は「学部生でもポスター発表できます。海外での体験は貴重で、継続できる仕組みが必要だと思います」。参加学生たちは「国際会議での発表は、とても緊張しましたが、タイ学生との交流、工場見学などがあり、よい機会を与えていただいたと感謝しています」などと語っていた。受賞者は次の通り。

Poster 11 小川祐輝さん（同）、木曾寛隆さん（金融・経営リスク科学科4年、森研究室）▽Good poster 11 片倉和彦さん、佐々木大喜さん、山口祐輝さん（同学科3年、同研究室）▽Excellent 徐春暉研究室

院生4人が優秀賞

日本デザイン学会秋季企画大会で発表

平成29年度日本デザイン学会秋季企画大会（10月13～15日、函館市地味まらびくろセンターほか）で、ポスター発表した本学の石井智崇さん、小田彩花さん、不動さん、西尾修明さん（以上赤澤智津子研究室）、西尾修明さん（佐藤弘書研究室）もデザイン科学専攻修士1年11の4人が優秀賞に決定。このほど表彰状が届いた。大会では「共創・当事者デザイン」をテーマに、当事者と共にデザインすることの意味を話し合った。学生プロボシオンには全国から15校68人が参加し、20件が優秀賞に選ばれた。受賞4人の発表内容と感想は次の通り。

「デザイン未経験者を含めたワークショップによる、潜在的価値抽出デザインプロセスの計画・インプロジェクト」

「デザイン未経験者を含めたワークショップによる、潜在的価値抽出デザインプロセスの計画・インプロジェクト」

石井 智崇さん

「エクスペリエンスマップに基づくロゴマークの設計要件の抽出」在宅医療・介護の連携を推進する組織のロゴマークの制作」

「船橋在宅医療ひまわりネットワーク」のロゴマークを制作。現場に必要なロゴマークの要素を明らかにするため、医師やケアマネジャー、患者家族などから話を聞いて「体験マップ」を書き出し、ロゴマークの設計要件の抽出を経て制作。施設に採用された。発表では専門用語を使わず、初めての人に分かるように心がけたという。「他大学の学生・教授と自分のテーマを議論できてよかったです。他領域からの意見はとても新鮮で参考になりました」

「デザイン未経験者を含めたワークショップによる、潜在的価値抽出デザインプロセスの計画・インプロジェクト」

「デザイン未経験者を含めたワークショップによる、潜在的価値抽出デザインプロセスの計画・インプロジェクト」

「デザイン未経験者を含めたワークショップによる、潜在的価値抽出デザインプロセスの計画・インプロジェクト」

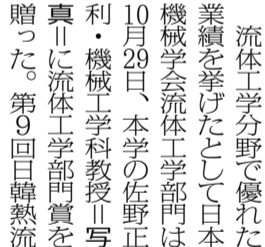
「デザイン未経験者を含めたワークショップによる、潜在的価値抽出デザインプロセスの計画・インプロジェクト」

金田 准教授に最優秀論文発表賞



日本水泳・水中運動学会の2017年度年次大会は10月21、22日、東京都北区の味の素ナショナルトレーニングセンターで表現する。のプロセスを経て制作したことを

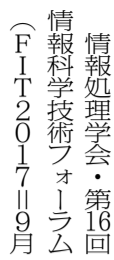
佐野教授に流体工学部門賞



流体工学分野で優れた業績を挙げたとして日本機械学会流体工学部門は10月29日、本学の佐野正利・機械工学科教授に写真に流体工学部門賞を贈った。第9回日韓熱流

神保さんFIIT奨励賞

深層学習で圧縮画像の雑音を無く新手法



情報処理学会・第16回情報科学技術フォーラム（FIIT2017）9月12～14日、東京・本郷の東京大で開催の一般講演で、神保さん（情報科学専攻修士1年、八島由幸研究室）が「量子化幅適応型ディープラーニングを用いたH・265/H・265/HEVC符号化雑音除去」を発表し、

「画像認識の性能を飛躍的に向上させたAI（人工知能）技術を用いた国際標準方式MPEG/JPEGなどで知られるデジタル画像の圧縮・伝送に取り入れる研究が注目され

「画像認識の性能を飛躍的に向上させたAI（人工知能）技術を用いた国際標準方式MPEG/JPEGなどで知られるデジタル画像の圧縮・伝送に取り入れる研究が注目され

「画像認識の性能を飛躍的に向上させたAI（人工知能）技術を用いた国際標準方式MPEG/JPEGなどで知られるデジタル画像の圧縮・伝送に取り入れる研究が注目され

「画像認識の性能を飛躍的に向上させたAI（人工知能）技術を用いた国際標準方式MPEG/JPEGなどで知られるデジタル画像の圧縮・伝送に取り入れる研究が注目され

「画像認識の性能を飛躍的に向上させたAI（人工知能）技術を用いた国際標準方式MPEG/JPEGなどで知られるデジタル画像の圧縮・伝送に取り入れる研究が注目され

「画像認識の性能を飛躍的に向上させたAI（人工知能）技術を用いた国際標準方式MPEG/JPEGなどで知られるデジタル画像の圧縮・伝送に取り入れる研究が注目され



「画像認識の性能を飛躍的に向上させたAI（人工知能）技術を用いた国際標準方式MPEG/JPEGなどで知られるデジタル画像の圧縮・伝送に取り入れる研究が注目され

「画像認識の性能を飛躍的に向上させたAI（人工知能）技術を用いた国際標準方式MPEG/JPEGなどで知られるデジタル画像の圧縮・伝送に取り入れる研究が注目され

「画像認識の性能を飛躍的に向上させたAI（人工知能）技術を用いた国際標準方式MPEG/JPEGなどで知られるデジタル画像の圧縮・伝送に取り入れる研究が注目され

「画像認識の性能を飛躍的に向上させたAI（人工知能）技術を用いた国際標準方式MPEG/JPEGなどで知られるデジタル画像の圧縮・伝送に取り入れる研究が注目され

「画像認識の性能を飛躍的に向上させたAI（人工知能）技術を用いた国際標準方式MPEG/JPEGなどで知られるデジタル画像の圧縮・伝送に取り入れる研究が注目され

「画像認識の性能を飛躍的に向上させたAI（人工知能）技術を用いた国際標準方式MPEG/JPEGなどで知られるデジタル画像の圧縮・伝送に取り入れる研究が注目され

「画像認識の性能を飛躍的に向上させたAI（人工知能）技術を用いた国際標準方式MPEG/JPEGなどで知られるデジタル画像の圧縮・伝送に取り入れる研究が注目され



FDフォーラム 真剣質疑

▼ 研究発表5件を教育業績表彰

教職員が力を合わせて
 本学の教育力向上に取り
 組むFDフォーラム(F
 D委員会主催)委員長・
 長尾徹デザイン科学科教
 授が11月27日、津田沼
 キャンパス2号館大教室
 で開かれ、昨年度を上回
 る約150人の参加者が
 真剣に質疑した。写真。
 FD(Faculty Develop
 ment)授業改革の組織

「大学の教育力向上に取
 り組むFDフォーラム(F
 D委員会主催)委員長・
 長尾徹デザイン科学科教
 授が11月27日、津田沼
 キャンパス2号館大教室
 で開かれ、昨年度を上回
 る約150人の参加者が
 真剣に質疑した。写真。
 FD(Faculty Develop
 ment)授業改革の組織

研究開発の成果発表

▼ 介護系S-I-LABの2チーム

デザイン科学、プロジ
 エクトマネジメント、未
 来ロボティクスと機械電
 子創成工学、建築の5学
 科の学生で構成する2つ
 の混成チームが、今年7
 月から取り組んできた介
 護系S-I-LABプロジ
 エクトの成果発表会が11
 月16日、津田沼キャン
 パス2号館で開かれた。

社会実装(Social Implementation)を見据

えた高齢者介護のための
 サービスや製品、システ
 ムなどを、学科の垣根を
 越えて学生が主体的に創
 り出そうというこのプロ
 ジェクトに参加したのは
 デザ科、PM、未ロボの
 3年生各2人と、建築の
 2年生2人、機械電子創
 成の2年生3人の計11
 人。



成果を発表するS-I-LABチーム



映画「つむぐもの」の討論会

2チームが発表した成
 果は――。

■チームA「CORE」(ク
 ーラ)(リーダー・経塚
 彩乃さん) デザ科) 介
 護施設利用者の要望に適
 合し、自分らしい生活を
 送ることのできる施設探
 求と、施設側のベッドの
 積み重ね、チーム独自
 のテーマ構築に挑んでき
 た。

を進めるマッチングサー
 ビスシステムの開発。

■チームB「Senior
 (スマイラー)(リーダ
 ー・北本彩乃さん) デザ
 科) 施設内での利用者
 のレクリエーション時間
 をより楽しくするロボッ
 トの開発。センサーとラ
 ロジエクター、パソコン
 機能を内蔵し、スクリー
 ンや壁などに

投影した映像
 が、利用者の
 動きに反応し
 て自在に変
 化。さまざま
 なゲームなど
 ができる。

◇

発表会には
 介護施設や機
 器、介護士養
 成などに携わ
 っている専門
 家6人や、チ
 ームメンバ
 ーの学生が所属
 している学科
 ・研究室の教

員、そして介護関係者と
 参加学生をつないでこの
 プロジェクトの運営を支
 えている(株)aba代表取
 締役の宇井吉美さん(大
 学院工学研究科在籍)ら
 が参加。

専門家からは、2チ
 ームのアイデアや具体的な
 内容について、「素晴らしい」「現場に適用する
 にはさらに具体的な詰め
 が必要」など、学生たち
 の意欲を刺激するさまざ
 まな意見が出た。

富山研究員の話 S
 I-LABプロジェクト
 の最大の特徴は「全てを
 学生が自分たちで決め
 て、自分たちで実行し、
 成果を生み出す」。言い
 換えれば「自分から動
 け」ということです。

「つむぐもの」は、ワ
 ーキングホリデーで福井
 にやってきた若い韓国人
 女性と、介護が必要にな
 った頑固な和紙職人の交
 流を通して、人が最期ま
 で自分らしく生きるには
 何が必要かを、見る人に
 訴えかける作品。主演は
 石倉三郎と手嶋コッピ。

学生よ 習志野に帰れ

▼ 市が本学で講演会開催

「習志野発学生向け」
 をキャッチフレーズにし
 た講演会が11月11日、習
 志野キャンパス2号館大

教室で開催された。
 「イノベーションで世
 界を変えよう」をテーマ
 に、ジャーナリストの田
 原総一郎氏、起業家志望
 者に人気のコンサルタン
 ト・山口周氏、「働き方
 のリデザイン」を掲げて
 活躍している石川貴志氏
 が熱弁を振るった。

30年度AO・推薦入試終了

平成30年度AO・推薦
 入学試験が、11月19日
 に行われた指定校制推薦入
 学試験を最後に、全日程
 を終了した。

9月から11月にかけて
 △AO創造入学試験▽公
 募制推薦入学試験▽専門
 高校推薦入学試験▽指定
 校制推薦入学試験▽帰国
 生徒推薦入学試験(指定
 校制)▽特別入学試験
 (外国人留学生・帰国生
 ・徒・社会人)――と、順

次行ってきた。志願者数
 の合計は1543人。
 また、編入学試験、指
 定校制(高等専門学校)編
 入学試験を11月18、19日
 に行い、今年は48人が志
 願した。

われたポスターセッションには教員16件、大学改
 革推進室1件、教務委員
 会1件の計18件の研究発
 表が展示され、それぞれ
 のポスターの前で教職員
 が熱い議論を交わしてい
 た。

これら研究発表のうち
 次の5件が「教育業績表
 彰」に決まり12月7日、
 表彰式が行われた。

▽新井浩志准教授(機
 械電子創成工学) 機
 械電子創成基礎実験・実
 習におけるPBL教育
 ーピンポン玉トランス
 ポータの作製
 △金田晃一准教授(教
 育センター) ジャグリ
 ングを通じたスキルトレ
 ニング(身体・ティ
 ーピング・文章化・プレゼ
 ンテーション)と教養テ
 ーマ科目・テーマC・課
 題探究セミナーに向けて

▽木島愛准教授(教育
 センター) 「異文化理
 解」の目的と工夫
 △手嶋吉法教授(機械
 電子創成工学) パテ
 ント&デザインパテント
 コンテストへの応募と国
 際会議での英語発表を研
 究室の全学生に経験させ
 る取り組み
 △山崎治准教授(情報
 ネットワーク学科) 「着
 実/柔軟な授業改善」に
 繋がる講義の映像コンテ
 ンツ化

◇

長尾委員長の話 ここ
 数年、高く評価されてい
 る本学の教育力向上に照
 らしても、FDの効果は
 十分に出てきており、こ
 の流れをしっかり維持し
 ていくことが大切と思
 う。

と習志野を好きになっ
 てもいい、たとえ転出し
 ても結婚や就職、転居な
 どを機に、もう一度習志
 野を思い出してもらえ
 る存在になりたい――とい
 う市当局の願いを込めた
 企画だ。

会場には、メールなど
 で事前応募した本学の学
 生をはじめ、他地域の学
 生や中・高校生、一般
 市民など約250人が集
 まり、講師の話に熱心に
 耳を傾けていた。

本学と習志野市は平成
 26年3月に包括協定を締
 結し、教育や生涯学習な
 ど市民生活に関する幅広
 い分野で協力し合ってい
 る。

児童たちに 宇宙の話

▼タウンキャンパスで「うらやすこども大学」

浦安市が主に市内の大
学と連携し、小学4、5
年生に専門の話をつらや
やすく聴かせる「うらや
すこども大学」が5期目
の今年も開講した。

今回のテーマは「いろ
んな不思議について考え
よう」。本学では11
月11日、東京スカイツリ
ータウンキャンパスで、
和田豊・機械電子創成工
学科准教授が「宇宙と未
来技術の不思議」を子ど
もたちに講演した。

講演の前に児童たちは
キャンパス内のエリアI
(ロボットゾーン)、II
熱心に耳を傾けていた。

講演で和田准教授は、
千葉工大の惑星探査研究
センター(PERC)が
宇宙航空研究開発機構
(JAXA)やアメリカ
航空宇宙局(NASA)、
欧州宇宙機関(ESA)
など世界の主要組織と共
同プロジェクトを進めて

いることを分かりやすく
解説した。
小学生たちは、PERC
が国際宇宙ステーション
(ISS)に設置され
た超高度度ハイビジョン
カメラで流星を観測して
いる「メテオ計画」を進
めていること、また、は
やぶさくに搭載されてい
る科学観測装置の開発に
携わった、などの説明を
聞いて、宇宙の映像に見
入っていた。



①ロボットゾーンで災害対応車を見学 ②魔法のカードを不思議そうに手にとる子どもたち ③宇宙の話の聞く



「禁煙セミナー」開く

▼市民運動の丸山さんが講演

2015年から敷地内
を全面禁煙にしている本
学は12月1日と6日のラ
ンチタイムを利用し、
「禁煙セミナー」を津田
沼校舎2号館、新習志野
校舎12号館の会議室で開
催し写真。就職先で受動
喫煙を体験し市民運動を
始めたという丸山恵梨子
さん(Smoke-Free World
代表)を講師に、両日合

わせて学生・職員約80人
が説明を聴いた。
丸山さんは、交通事故
死は年間約3900人だ
が、たばこが原因の死者
はケタ違いの14万300
0人、その内1万500
0人が受動喫煙、という
厚生労働省のデータを紹
介。ニコチンやタールが
身体に及ぼす影響や、普
及が加速している電子た

ばこの実際は……などを
約50分間話した。
たばこの害に明確な施
策を打てない日本に対し
「千葉工大の敷地内全面
禁煙は、グローバルスタ
ンダードを体現できている」と褒めた後、就職内
定の条件に禁煙を含める
企業も出ている、と注意
を促した。

活躍する 校友

株式会社アイオー精密会長

鬼柳 一宇さん (77歳)

(昭和37年、電気工学科卒)

「あと10年は頑張りたい」。
鋭い眼光、引き締まった口元
を突いたのは、こんな言葉で
ある。本学初の柔道世界チャン
プとして名を上げ、当ニュー
ースにも以前登場した猛者
だ。2017年春、新たな本
社屋(岩手県花巻市)竣工と
ともに社長の座を降り、会長
に。しかし「生産現場は完成
型にあらず。通過点です」と
きっぱり。改良の途を求めて
いまなお全国を歩く。8年ぶ
りに再訪し、老いを投げ飛ば
すがごとく熱き創業者魂を語
っていった。

本社現場を案内された。
工場見学中の地元の高校生と
バッタリ。毎年、中学生の見
学やインターンシップの受け
入れなどCSR活動(企業の
社会貢献)にも力を入れ、花
巻随一の従業員(490人)
を擁する会社として地域に寄
与している。

理・表面処理など最新鋭機器
の間を自由自在に流れる。
「ネジ1個、1枚のワッシャ
ー(座金)でも」をモットー
にした社内一貫生産体制が評
価され2016年度、中小企
業を顕彰する第50回「グッ
ドカンパニー大賞」グラン
プリに輝いた。

創業者魂 未だ熱く 柔道7段、精密部品にかける



「従業員がいかに働くかは経営者次第」と話す鬼柳さん

「手探りで進んできたなら、
こんな形になった。やってき
たことの99%は失敗でした
ね。謙虚である。が、技術
は日進月歩。東京、大阪、名
古屋など業界の展示会やセミ
ナーをのぞき、最先端の情報
や技術に目をこらす。
ここへ至る苦労が並大抵で
ないことは想像に難くない。
本学を卒業、しばらく続けた
サラリーマン生活に見切りを
つけ、アイオー精密を興して
約40年。この間、円高容認
の「プラザ合意」(1985
年)や国際金融危機「リーマ
ンショック」(2008年)
をへて国内の製造業は空洞
化。生産財づくりのお株も新
興国に奪われていく。
「量産品はコスト面で新興

国にかなわない。だったら日
本の技術基盤でしかできない
高付加価値製品を必要ととき
届けるシステムを築こう」
2000年に東京営業所を
オープン、競争力強化へ打っ
て出る。このたび社長の椅子
を譲った専務の一宏氏(48)
は長男が都市銀行の中堅幹
部職を去り、花巻へ戻って入
社したのは、その翌年だ。
「呼んでいない」と本人は
言うが、周囲の声を聞くと、
いくぶん強がりに響かぬでも
ない。

ため、神戸や中国の工場へ図
面を送り、「納期遅れを一件
も出さなかった」という。す
ごいことに震災3カ月後、ド
イツ・フランクフルトであつ
た第3回世界グランドマスタ
ース柔道大会(国際柔道連盟
主催)60kg級で金メダルを獲
得。復興に追われつつ、出張
先でも腕立て伏せなど鍛錬を
続けた賜物だろう。いまも同
じ。

朝6時に入社。朝礼では社
長と並んで5分ほど話す。
「いつまでも創業者の時代で
はないのだけ
れど、会社の
進む方向、従
業員がいかに
働くかは
経営者次第。
しっかり経営
方針を示さな
いと社員はつ
いてこない」
との信念は
固い。この
ところ電機、
製鉄、自動
車、化学メー
カーなどモノ
づくりを支えてきた企業のデ
ータ改ざんなど目に余るが、
「ライバルより優れた製品を
供給しよう」としないこと、つ
まりお客を忘れていない結果」
と一刀両断だ。
常任理事を務める「日本マ
スターズ柔道協会」十二年の
歩み(2015年)にこう
投稿している。「人生の終盤
戦というのは何かと忙しいよ
うです。まさに、若いたる
タカは若きヒバリ(強健な
人は歳をとっても元氣旺盛)
ギリシャのことわざ」。

市場ニーズに対応した変種
変量短納期で工作機械、産業
用ロボットといった生産財用
の精巧なネジや歯車などの部
品を製造する。顧客のオーダ
ー図面、CADデータは、旋
盤やフライス、研削盤、熱処

「量産品はコスト面で新興

現在、岩手県内3工場のほ
か、西日本の生産拠点として
神戸工場(神戸市)、それに
中国に二つ、ベトナムに一つ
工場を持つ。東日本大震災
(2011年3月11日)では
物流インフラがストップした

「量産品はコスト面で新興

地域と大学をつないで

第68回津田沼祭

最多2万6千人が来場

秋の大学祭「第68回津田沼祭」が11月24〜26日（金土日）の3日間、津田沼キャンパスで繰り広げられた。今年のテーマは「Connect〜学生から地域を盛り上げよう」。地域の企業や市民、自治会とさらに強くつながることで津田沼祭を充実させたい、と願った。会期中は秋晴れに恵まれ、過去最多・延べ約2万6千人の来場者でにぎわった。

●初日 雨のなか準備した前日とは打って変わって秋晴れに。高嶋祥平

秋の大学祭「第68回津田沼祭」が11月24〜26日（金土日）の3日間、津田沼キャンパスで繰り広げられた。今年のテーマは「Connect〜学生から地域を盛り上げよう」。地域の企業や市民、自治会とさらに強くつながることで津田沼祭を充実させたい、と願った。会期中は秋晴れに恵まれ、過去最多・延べ約2万6千人の来場者でにぎわった。

●2日目 イベント広場は、ちびっこ手作り教室やストラックアウトでにぎわった。特設ステージでは、台気道部、よさこいソーラン風神部が華麗な演技、演舞を披露。アカペラサークルのハーモニーが響き、ストリートダンスサークルが迫力あるショーを繰り広げた。

●最終日 ロボットコンテストでは軽音楽部が演奏、風神部が演舞を見せた。

学生・市民待望のお笑いLIVEでは、津田沼祭でしか見られない豪華6組の芸人が登場。「ブルーツボンチ」「おぼたのお兄さん」……と続き「デニス」を最後に、会場を笑いで満たした。

親子でも乗れるミニ電車体験（鉄道倶楽部）は連日の行列。キャンパスに並ぶ模擬店は、お好み焼き、やきそば、うどん、豚汁、モツ煮など定番の、がっつり味わえるものに加え、お餅のワッフル、チョコスなどのスイーツ、大人向けアルコールを扱う店も。家族や年配者からも好評だった。

雑貨店は、工業大ならではの学んだ成果が表れたデザインが売り物。手に取ったり、買い求める姿が多く見られた。過去最多の来場者を迎えた。

高嶋実行委員長の話

高嶋実行委員長の話

高嶋実行委員長の話

同窓会

同窓会

同窓会

四季雑感

アカデミアの道に進むことを決めた頃の目標が霞みかける中、なんとかなりそうな目標の一つに「修士全員で国際会議」がある。研究成果はもちろんのこ、開催日程や経済的な面もあり、なかなか実現は難しい。そんなある年、修士みんなで国際会議に行こうと決めた。韓国から来ている卒研生が帰省するといので、ついて行くことにした。近くて遠い国、韓国。これはいい機会！と思ったら、卒業旅行をどこに行くか決めかねていた学生たちが全員ついて来ることにになり、学生の卒業旅行に教員がついて行くという変な構図になった。なにはともあれ、修士全員で海外！いや、これも違います。目標は修士全員国際会議で研究発表です。研究室の皆さん、来年こそは！

未来ロボティクス学科 菊池 耕生

情報工学科 山口 智



開会式にチバニーも参加



よさこいソーラン風神部の演舞



ロボットコンテストでは応援もにぎやか



最終イベントのピンゴ大会には1000人が参加



迫力あるストリートダンス



たこ焼き。定番こそが、うまいのだ



空手部の形

編集だより

10月から12月は、公私共に怒涛のような日々。2017年を締めくくる冬のオープンキャンパスを終え、今年もあとという間だったとじみじみ。12月のオープンキャンパスでは、これまでキャンパスアドバイザーの代表としてチームをまと

め、企画・立案に協力してくれた学生達も代わりとなり、ほんの少し寂しい気分になる。

息子や娘のような年齢の学生たちと、意見を交わし、一つのを作り上げていく過程で発生するいろいろな出来事は、私にとって何にも変えがたい貴重な時間だ。毎回、何千人もの高校生や保護者を迎える大イベントを、無事終了に導き、毎度無理難題を快く引き

受けてくれる学生たちには、言葉では言い尽くせないほど感謝の気持ちでいっぱい。

昨年はトリ(年)女のごとく、西さえ決まればいいななんて能天気な考えでいたが、実際のところ「鳥目か」と突っ込まれるような体たらく。来年は、自分しか出来ない何かでNo.1(ワンツ)を目指そうと思う。

入試広報課 大橋 慶子